



昭和女子大学
現代ビジネス研究所

News Letter

昭和女子大学 現代ビジネス研究所 | ニュースレター |

15

Greeting

現代ビジネス研究所新所長就任のご挨拶

昭和女子大学 現代ビジネス研究所
所長 今井 章子

22年度より所長を拝命いたしました、今井章子です。16年に本学の常勤教員になるまでは、シンクタンクで政策広報やCSR研究、国際間の政策対話に取り組んでいました。現在はグローバル経済と持続可能性を中心に研究しています。そうした視点からみますと、本学の通称「ビジ研」の強みは、「現場力」「多様性」「独立性」にあるのではないかと感じています。

ビジ研には100人以上の社会人研究員が所属していますが、一人一人がお持ちの実務家としてのskillとwillは、象牙の塔から眺めているだけでは絶対に得られない貴重なものです。経済学、経営学など理論と実践の往来によって発展した学問領域では、実社会を多角的多面的に分析し、常に理論を検証していくことが欠かせません。多様な領域から多彩な実務家研究員が集う「ビジ研」は、その意味で現場力の「宝庫」ではないでしょうか。

「独立性」については「何からの」独立が重要ですが、特に社会人研究員にとっては「付度からの自由」が極めて重要であると考えています。実務によって培われたskillやwillは個人の所有物にほかなりませんが、同時にその機会と資源を提供した「所属先への付度」も強く働きます。その点、一個人としての研究員が集う大学研究所はsafe zoneと言えましょう。

この多様な現場力という「宝」と、独立の場としての「地の利」をいかに活かしていくか。産官学という多様なパートナーシップにより、経営や行政に新たな息吹を吹きこめるかもしれません。大学附属研究所として研究員のユニークな経験に基づく新たな学習・研究機会を創造したり、研究員と本学大学院で学んだ社会人卒業生との対話もできそうです。

「多様性」とは響きは良いですが、対人・対組織にかかわらず、調整に手間と軋轢が



生まれやすく、回避指向が働きがちです。しかし最近では、単一的方法では解決しない複雑な課題に対して、あえてこの手間と軋轢に挑み大きな変化を起こす「コレクティブ・インパクト」の手法に注目が集まっています。「ビジ研」という知的サロンの、コレクティブ・インパクトを生み出す拠点として、皆さまとともに育てていけたらと思います。どうぞよろしくお祈りします。

組織改編に伴い、2020年10月1日より、現代ビジネス研究所は、昭和リエゾンセンターを統合し移転しました。新しいオフィスは、本学10号館1階（西キャンパス）になります。

お問合せ先 昭和女子大学現代ビジネス研究所
bizlab-office@swu.ac.jp
アクセス 昭和女子大学10号館1階
Webサイト <http://swubizlab.jp>



現代ビジネス研究所の
リーフレットが
完成しました



▶ 課題解決型プロジェクト

「多気町応援プロジェクト」活動報告

人間社会学部 現代教養学科
2年 磯辺 美佑

多気町応援プロジェクトは、三重県に位置する自然と食が豊かな多気町と共に、町を盛り上げるために活動している地方創生プロジェクトです。今年度は、学科も学年も異なった6人のメンバーで活動しました。

このプロジェクトが始動した当初はコロナ禍で制限がある中、思うように活動できない状況でしたが、最終的に多くの活動



を行うことができました。

まず、学内販売では、何をどんな人に売りたいのかを考えることから始めました。校内放送やポスターを使って宣伝したり、自ら描いたラッピングを用いたりと私たちにしかできない学内販売を行うべく工夫を凝らしました。また、現地研修で柿農家さんを訪れたことをきっかけに、傷がついた柿は売り物にならないことを知り、世田谷区の子ども食堂に連絡を取り、自らの手で傷柿を配ることができました。その他にも、特産品のレビューを書いたり、インスタグラムを使ったりと様々な活動を行いました。

このプロジェクトを通して、挑戦することと、主体的に動くことの重要性を度々実感しました。オンラインでの会議が主流でし



たが、それでも行動し続けた結果、多くの活動ができたのだと思います。そして、改めて多気町のあたたかさや良さに気付かされました。ここで学び成長できたことは糧であり、貴重な経験です。今後は、私たちがプロジェクトを応援する立場になっていきたいと思っています。プロジェクトにご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

昭和女子大学×駒場東邦中学校

「女子大生と男子校中学生と一緒に考える」プロジェクト活動報告

2020年1月、当研究所のジェンダー平等を考えるセミナーに、駒場東邦中学校教員が生徒数名と参加したのがきっかけとなり、約230人の中学生を対象に本プロジェクトがスタートしました。女子大生と男子中学生という「最も接点のない遠い存在」同士が対話することで、互いに異なる価値観を持つ他者を理解することを目指し、3年間継続して活動を行い最終年度にプロジェクト報告をまとめる予定です。

1年目(2020)は、男子中学生と女子大



生が、「無意識のバイアスについて一緒に考える」ことで視野を広げること、2年目は多様性ハラスメントについて考え、「立ち止まって考える」ことを目的としました。1年目も2年目も多くのメディアに活動を取り上げていただきました。

活動内容は、①中学生に授業前後にアンケートに回答してもらい経年変化を見ること、②授業資料の作成とリハーサル、③授業の実施です。授業を行う大学生は、学生が学生に教える「ティーチング・アシスタント(TA)」の訓練を受けており、グループワーク形式で授業を行います。今年度の授業テーマは「多様性とユニバーサルデザイン」と「CMの炎上やハラスメント」について、自分たちの中にある無意識バイアスについて考えました。

中学生と一緒に考える中で、本学学生は「男子中学生と女子大学生は当然のように



年齢も学習歴も異なるわけで、だからこそ双方が持つ多様な考えを一度立ち止まって共有する機会はとても実りのある時間だと感じました。」「自分の中にも無意識のバイアスがあった」等の気づきがありました。

すでに中学生から来年度取り上げてほしいテーマも出ています。今年度の授業で得た気づきや意見を基に次年度に継続されることを期待します。

(文責:会計ファイナンス学科 准教授 小森 亜紀子)

2021年度PBLプロジェクト一覧

	プロジェクト名	責任者	協働先団体
地域・食・デザイン系など	地場産業共創プロジェクト ー産直あぐりとのコラボ商品開発ー	高尾 哲也(安全)、地家 真紀(安全)	株式会社産直あぐり
	東急電鉄×昭和女子大学プロジェクト	ライアン・ケビン(英コミ)	東急電鉄株式会社
	Sanchart(サンチャート)	木下 亮(歴史)、鶴岡 明美(歴史)	世田谷美術館
	木曾漆器デザインプロジェクト	桃園 靖子(環境)	木曾漆器工業協同組合
	エミリーキッズラボで探究活動を プランニングしよう	鶴田 麻也美(初教)	株式会社ビスタクルーズ
	戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト ー被団協関連文書ー	松田 忍(歴史)	特定非営利活動法人ノーモア・ヒバクシャ 記憶遺産を継承する会
	近現代美術の保存に向けたアーティスト インタビュー・アーカイブ構築プロジェクト	田中 真奈子(歴史)	The Getty Research Institute
	「女性とがん」をめぐる問題から 「一歩を踏み出す」プロジェクト	現代ビジネス研究所、黒谷 佳代(健康)	一般社団法人 全国がん患者団体連合会、 がんサロソリューションズ株式会社
	Hult Prize Project	八代 尚宏(ビジネス)、今井 章子(ビジネス)	Hult Prize Japan
	パルコ×昭和女子大学 クラウドファンディングプロジェクト	高木 俊雄(会計)	株式会社PARCO
	昭和女子大学×駒場東邦中学校「女子大生 と男子中学生と一緒に考える」プロジェクト	小森 亜紀子(会計)	私立駒場東邦中学校
	「女子大生が恋する!」井の頭線プロジェクト	高木 俊雄(会計)、小森 亜紀子(会計)	京王電鉄株式会社
	株式会社三恵×昭和女子大学 ファーストラブプロジェクト	高木 俊雄(会計)、小森 亜紀子(会計)	株式会社三恵
	中野区商店街活性化プロジェクト	高木 俊雄(会計)	西武信用金庫、株式会社JTB
	昭和女子大学×ScroIR&D 「一人を楽しむ」プロジェクト	小森 亜紀子(会計)	株式会社スクロールR&D
	ブラックラムズパートナーシッププログラム	稲澤 裕子(総合)	株式会社リコー
	品川多世代共生シェアハウス企画 プロジェクト	李 恩心(福祉)、佐藤 千晶(福祉) 清水 史子(管理)、喜屋武 雅美(管理)	株式会社ケアメイト
	英語でSTEAM教室プロジェクト	高木 俊雄(会計)	テンブル大学ジャパンキャンパス
	カルビー x 昭和女子大学 産学連携プロジェクト	高木 俊雄(会計)	カルビー株式会社
	インターンシップ系	久慈市インバウンド戦略プロジェクト2021	志摩 園子(現代)
多気町応援プロジェクト2021		廣田 拓(総合)、志摩 園子(現代)	三重県多気町役場
鶴岡再発見プロジェクト2021		志摩 園子(現代)	山形県鶴岡市役所
東伊豆町魅力発信プロジェクト		豊田 千明(初教)	静岡県東伊豆町役場
江戸文化の残る浅草の 魅力を伝えるプロジェクト		野口 朋隆(歴史)	東武鉄道株式会社
東洋文庫 Student Internship Program		牧野 元紀(歴史)	公益財団法人 東洋文庫
食を通じた地域支援応援プロジェクト		黒谷 佳代(健康)	世田谷社会福祉協議会、世田谷コミュニティ 財団、大沢おせっかいクラブ
海と山と里、魅力発見プロジェクト ー大井町・松田町ー		志摩 園子(現代)	神奈川県大井町役場、神奈川県松田町役場、 東明学林学寮
やってみるっぺ館山		橘 倫央(環境)、志摩 園子(現代)	千葉県館山市役所、望秀海浜学寮

▶ 研究セミナー

「新しい資本主義」の評価 ～古い規制の改革を通じた市場型資本主義へ～

日時：2022年3月14日(月) 18:30～20:00

場所：オンラインにて開催

講師：昭和女子大学副学長・現代ビジネス研究所所長 八代 尚宏氏(肩書は2021年度)



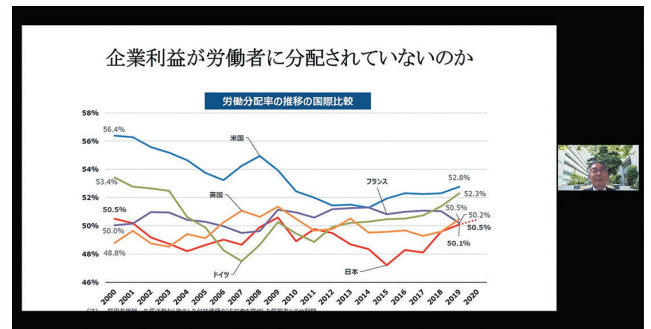
2021年9月に誕生した岸田首相は、新自由主義の広がりやグローバル化の進展に伴う弊害(格差や貧困の拡大、気候変動問題など)を乗り越え、持続可能な経済社会の実現に向けて「新しい資本主義」をうたいあげている。今回の講演テーマは、この「新しい資本主義」を取り上げ、八代先生が自らの経済学をベースにそれを批判的に検討するという、実に時宜

を得た内容であった。冒頭、坂東理事長・総長が、「八代先生は新自由主義の騎手として、古い規制の改革を通じた市場型資本主義への改革をリードしてこられた第一人者である」と紹介されたが、まさに討論に最もふさわしい講師ということになる。以下、1時間に及んだ密度の濃い講演の内容を概観したい。

まず、岸田首相の「新しい資本主義」全体については、何が問題で、どのように変わればよいか、どういう論理でそうなるのかの説明が不十分だとした。

そのうえで、岸田首相の「経済社会変革」の各論について、以下のような問題提起があった。主な論点は、①民間のイノベーションを官が評価して支援する体制は、過去の産業政策である、②新自由主義で日本の所得格差が拡大といわれるが、市場競争なしには既得権が維持されただけではないか、③日本の賃金は低迷しているが、企業の内部留保は労働者の雇用安定の原資でもある、④非正規雇用の拡大が所得格差の原因といわれるが、自営業等からの代替もあり、正規雇用の水準は長期的に安定している、⑤岸田政権の経済政策は需要面に重点があるが、いま重要なのは供給面の生産性低迷である。不確実なイノベーションを求めるよりも低生産性部門の構造改革で生産性向上が確実に早く図れる、⑥「デジタ

ル田園都市国家構想」、ICT活用による地方の活性化には、労働時間等の制度改革が不可欠である、⑦地方の成長産業創出のモデルは農業である。減反を廃止し、企業の参入で規模を拡大すれば、競争力が高まり輸出産業化が図れる、⑧規制によって低生産性を余儀なくされてきたサービス業の規制改革によってイノベーションを進め、生産性向上を図るべきである、⑨少子化対策として、介護保険と同じ仕組みの、子ども保険制度の創設が重要である、⑩高齢化社会対応としては、74歳までは働いて税金・社会保険料を支払うことを原則とし、規制改革によってシニア市場の拡大を促すこと等であった。広範な政策課題について、快刀乱麻を断ち切るごとく「八代節」がさく裂し、聴衆を魅了圧倒した。



岸田首相は、現在、「新しい資本主義」のグランドデザインと実行計画を取りまとめ中である。市場や競争に全てを任せきれない、「社会的共通資本」としてのエネルギーや食料等について、ナショナルセキュリティを踏まえた長期戦略をどう構築するか、さらに、「国のかたち」や「グランドデザイン」の詳細はどうか、検討結果を期待している。この点について、八代先生のお考えも機会を改めて拝聴したいものである。

(文責 研究員:熊坂 敏彦)

2021年度公開講座

「今さら聞けない、オンライン会議ツールの使い方」

日時：2021年6月26日(土) 10:20～12:00

場所：8号館パソコン教室とオンラインにて同時開催

講師：情報メディア課 下村 良幸

昭和女子大学現代ビジネス研究所では、毎年一般の方を対象に公開講座を開催しています。

2021年度前期には、本学情報メディア課の職員(下村良幸)が講師となり、「今さら聞けない、オンライン会議ツールの使い方」として、パソコンでのZoomを使ったミーティングの作成方法、ミーティング時の操作方法の基本から、双方向のやりとりに活かせる機能を使った応用まで、実際にご自身で操作をしていただきながらのレクチャーが行われました。

コロナ禍においてイベントのオンライン化など、デジタル化が加速するなか、この機会に習得したいと、対面で35名、オンラインでは124名の参加がありました。

本講座の前には初心者の方を対象にしたプレ講座を対面で実施。本講座を受講した方からは、「ぜひ続編を開催してほしい」、「これまで見よう見まねでやっていたので、きちんと学べて良かった」「なくてはならない時代になったのでとてもありがたい企画でした。」というお声をいただきました。



コース別学修

2021年度、現代ビジネス研究所研究員の数は、初めて100名を超えました。年齢層が幅広く、研究歴も多様です。博士号を取得し、追求したいテーマと方法論が確立している方もいれば、関心を寄せる対象はあっても、それを「研究」に発展させる方法が分からず迷っている方もいます。

そこで、ベテラン研究員が、研究に関する悩みや課題を抱えている研究員に、「ピアサポート」を行う勉強会を開催しました。本勉強会には、宮脇啓透研究員、大賀亮研究員に企画段階から参画していただき、研究員が対峙する課題を分析したうえで、「研究テーマ設定コース」と「研究方法

探索コース」を開設することにしました。

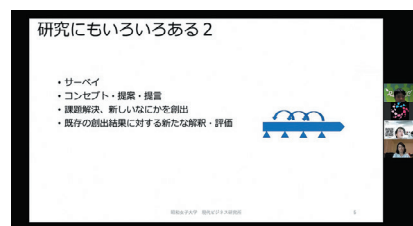
「研究テーマ設定コース」(担当:大賀研究員)は、「今年度の研究の方向性が見渡せるようになる」ことが目標。研究テーマのを見つけ方や、先行論文の探索方法を全3回で学び合い、参加者は研究の第一歩目を踏みだすきっかけを得ました。

「研究方法探索コース」(担当:宮脇研究員)は、「研究成果の論文投稿を行う」ことが目標。参加する研究員が、自身の研究計画や研究を進めるうえでの悩みを話し、他の研究員がそれに質問や助言をすることで、各々が新たな発見を得ることができました。

日時:2021年4月~6月(全6回)

場所:オンラインにて開催

講師:大賀 暁、宮脇 啓造



また、この「コース別学修」は、研究員同士が出会い、それぞれの研究内容を知りきっかけとしても有意義な機会となりました。研究所で得たネットワークは、今後のモチベーションにつながると思います。

研究助成金プロジェクト

産官学金連携による地域活性化の仕組み作りにあたっての実務的な課題や関係者ニーズを明らかにするため、2021年度から佐賀県有田町(以下有田町)を対象とした学生メンバー5名との協働プロジェクト「よかねARITAプロジェクト」を開始しました。日本磁器発祥の地とされ、産業と地域住民の暮らしが密接である特徴を持つ有田町では、有田焼の生産



量売上高がピーク時の6分の1に落ち込み、2060年の人口が2015年の人口の約半分程度になると推計されていることから、地域活性化の実現に向けた施策の具体化を進めているところです。

よかねARITAプロジェクトでは、有田町長の松尾佳昭様、有田町役場まちづくり課をはじめとした有田町の皆様と連携し、地域外の学生が有田町の活性化施策の担い手として関わる仕組み作りに取り組んできました。有田焼を中心に有田町の魅力を発信することを目的とした課題解決案5項目(SNS・サイト、フォトコンテスト、ギフトセット、パンフレット、PR動画)の実施を開始、また2021年12月には産官学金連携による地域活性化の仕組み作りの第一歩として、有田町役場ま

有田町と本学とのプロジェクト 「よかねARITAプロジェクト」活動報告

現代ビジネス研究所 研究員
熊澤 慎太郎



ちづくり課が主催、昭和女子大学現代ビジネス研究所と佐賀大学が協力という運営体制で、有田町の中心地域である内山地区の活性化策を学生の目線で考えるイベント「有田うちやまキャンパス」を開催しました。

今般、有田町と本学が包括連携協定を締結したことを契機に、連携の仕組みのさらなる具体化を進めていきます。

その他イベント

公益財団法人中島記念国際交流財団助成事業 2021年度東京国際交流館国際シンポジウム
文部科学省・外務省後援 昭和女子大学 第5回シンポジウム

女性是世界を変える

アジア太平洋地域における女性リーダーの育成を考える(現代ビジネス研究所共催)

日時:2021年12月4日(土)10:30~17:00

場所:オンラインにて開催

2021年度研究助成金プロジェクト

現代ビジネス研究所では、研究員の研究活動を支援するために、優れた研究に対して研究経費の一部を助成しています。

学生と協働するプロジェクトには本学教員がアドバイザーとして参加し、学生は実務経験豊富な研究員と共に実践的な学びを深めています。

2021年度は以下の11件が採択されました。また、これまでの活動状況は現代ビジネス研究所ホームページで公開している「紀要」でご覧いただけます。

研究員	研究テーマ
江原 義之	デジタルプラットフォームの活用研究 — MaaSにみる共通プラットフォームの現状 —
川崎 保弘	産官学連携研究の組織間関係における「異文化理解」の効用
木村 誠	国際貿易理論「メリッツモデル」からみる地場産業の輸出支援の妥当性
熊坂 敏彦	持続可能な地域社会づくりに向けた 「地域・産業政策」の方向性に関する研究
熊澤 慎太郎	「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」終了を 踏まえた地域活性化策の研究
段谷 憲	大規模災害に対応する非常食のローリングストック普及のための 1週間メニューと災害対応アプリ開発に関する研究
鶴沢 真	スマートフォンによるキャッシュレス決済の利用要因 — 利用者の一般的信頼と決済事業者への信頼の役割 —
永合 由美子	アンコンシャスバイアスの克服に関する研究
西村 美奈子	マチュア世代の働く女性のセカンドキャリアの意識調査 (セカンドキャリアで働き続けるということ)
根橋 玲子	地域の加工技術とグローバル優位性(4年目) ～金沢・福井・燕の地場産業と台湾との連携可能性
矢島 慶佑	S-LABO前後における参加学生の内面の変化・広がりに関する一考察 ～ディプロマポリシーの可視化に向けて～

(代表研究員50音順)

研究員サロン

現代ビジネス研究所では、研究員の研究報告や学生のプロジェクト活動報告、また本学教員による専門部やについてレクチャーなど、様々なテーマで「研究員サロン」を開催しています。2021年度に開催した「研究員サロン」は以下の通りです。

- 2021年5月26日 **デジタル通貨と決済革命** 登壇者: 特別研究員 林原行雄
- 2021年8月30日 **学生と協働する研究プロジェクトの効果と工夫** 登壇者: 研究員 鶴沢真、根橋玲子、矢代晴実
- 2022年2月18日 **ビジ研先輩研究員にきいてみる! 研究への取り組み方** 登壇者: 研究員 西村美奈子、遠藤佳代子、熊澤慎太郎、美浦幸子

2021年度 研究員活動状況

研究員・特別研究員は、授業のゲストスピーカーや外部講師等、学内の様々な活動に参加しています。

今年度は以下の研究員・特別研究員にご協力いただきました。

石川 航平、遠藤 佳代子、大賀 暁、熊澤 慎太郎、小松 裕長、崔 真淑、斉藤 訓之、重 浩一郎、古田土 俊男、
竹中 哲也、高橋 恵子、西村 美奈子、橋本 之克、笛木 隆弘、美浦 幸子、宮脇 啓透、矢島 慶佑、林原 行雄

(五十音順、敬称略)

その他、学生のインターンシップにもご紹介・受け入れなどにもご協力いただきました。